

# 基本目標1 教育・保育、地域の子育て支援の総合的な提供

## 基本施策1-1 質の高い教育・保育の提供

施策の方向性 幼児期における教育・保育の量の拡充と質の向上を進め、教育・保育環境の充実を図る

### 参考指標と総合評価

指標項目	基準値	中間値	31年度目標値	総合評価
①現在利用している教育・保育事業の満足度(子どもへの接し方・日常の遊び)	92.0%	91.8%	100.0%	B
②現在利用している教育・保育事業の満足度(職員・先生の指導力)	—	87.8%	100.0%	
③「保育所や幼稚園に、希望した時に入れなかったことを不安に思っている親」の割合	4.3%	11.9%	基準値より減少	

①③基準値：平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童の保護者)

①②③中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査(就学前児童の保護者)

### 秋田市子ども・子育て会議委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	35%	65%	0%

#### 【委員からの主な意見(要約)】

- 待機児童の解消が問題であるが、未だに追いついていない状態である。いつか飽和状態となることが見込まれるが、その前に施策を考えておく必要がある。
- 待機児童については、旧定義でも「0」になった時に初めて目標が達成したと言えることから、現地点ではまだまだ不十分。
- 保育の量の確保に向けた取組は評価できるが、質の確保がなされているかどうかが見えない。
- 保育の量の拡充はなされているものの、そのことによって総合的に質の低下につながる懸念があり、検証すべき。
- 質の高い教育・保育を目指すのであれば、秋田市として「質」について、明確に基準を設けて指導すべき。
- 教育の質の向上に向けた具体的な取組・事業がないのは残念。
- 保育士人材確保については、やれる施策を全て投入していかななくては、必要量の確保は難しい。
- 3歳未満児を受け入れたい気持ちはあっても、保育士の確保が難しい現状があるため、今後の保育士人材確保推進事業が進むことを期待する。

### 課題と今後の対応方針

女性就業率の増加などの社会情勢により、保育の受入枠の増数を上回る保育需要がある。今後計画的に保育需要に対応できるよう教育・保育の量の見込みと待機児童の把握を行い事業展開を図っていく。

保育所保育指針の改定や保育内容についての理解を深める研修等への協力や必要な助言を県と連携して行うとともに、子どもの発達や学びの連続性を踏まえ、発達の段階に応じたきめ細やかな指導を行うため、今後も子ども同士の交流活動や幼保小の教員・保育士の情報交換や研修の充実により質の向上に努めていく。

### 27～29年度の取組・事業

- 施設型給付・地域型保育給付
- 休日保育事業
- 公立保育所の民間移行
- 幼稚園の運営と安定化
- 認定保育施設助成事業(28年度末まで)
- 保育所における教育の充実
- 幼保研修会の充実および幼児と児童の交流活動の推進
- 3歳未満児定員拡大推進事業(28年度から)
- 保育士人材確保推進事業(28年度から)
- 保育士資格・幼稚園教諭・免状取得支援事業

# 基本目標1 教育・保育、地域の子育て支援の総合的な提供

## 基本施策1-2 地域における子育て支援の充実

施策の方向性 すべての子育て家庭に対する支援を行うため、地域子ども・子育て支援事業をはじめとした地域における様々な子育てサービスの充実を図る

### 参考指標と総合評価

指標項目	基準値	中間値	31年度目標値	総合評価
①「子育てに関しての不安感や負担感を非常に感じる人」の割合	15.2%	11.4%	中間値より減少	A
②「子育てに関しての不安感や負担感を非常に感じる人」の割合	13.2%	20.0%	基準値より減少	

- ①基準値：平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（就学前児童の保護者）
- ①中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査（就学前児童の保護者）
- ②基準値：平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学校児童の保護者）
- ②中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査（小学校児童の保護者）

### 秋田市子ども・子育て会議委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	65%	35%	0%

#### 【委員からの主な意見(要約)】

- 地域子育て支援拠点事業については、公では今以上の「質」の向上は無理と考えることから、民間に移管して、もっと「質」を上げるべきである。
- ネウボラの活動に期待し、未来センターとの連携も必要であるが、乳幼児が生活する保育所（園）、幼稚園、認定子ども園との連携も必要と考える。民間機関との連携を望む。
- 女性就業率の上昇に伴い、仕事と子育ての両立がしやすい環境づくりは重要であり、その一つに病児保育事業の充実があるので、より積極的に取り組んで欲しい。

### 課題と今後の対応方針

多様化する保育ニーズや女性就業率の増加などの社会情勢に対応していくため、地域子ども・子育て支援事業の利用ニーズに対応する確保を行うとともに内容の充実を図り、さらに保育士人材確保推進事業等との相乗効果により潜在需要や質の向上にも対応していく。また子育て世代包括支援センターとして、基本型の子ども未来センターと母子保健型（秋田市版ネウボラ）の子ども健康課との連携を強化するとともに、対象者への周知や相談機会を増やすためのPRに努めていく。

### 27～29年度の取組・事業

- 利用者支援事業（基本型・母子保健型）
  - ※28年度から母子保健型追加
- 延長保育事業
- 放課後児童健全育成事業
- 子育て短期支援事業
- 乳児家庭全戸訪問事業
- 養育支援訪問事業
- 地域子育て支援拠点事業
- 一時預かり事業
- 病児保育事業
- ファミリー・サポート・センター事業
- 妊婦健康診査
- 在宅子育てサポート事業
- 保育所在宅子育て支援事業
- 地域子育て支援ネットワーク事業
- 子育て支援情報の提供

## 基本目標1 教育・保育、地域の子育て支援の総合的な提供

### 基本施策1-3 放課後児童対策の充実

**施策の方向性** 放課後の子どもの遊び・生活の場を確保するとともに、次代を担う人材を育成するため、放課後児童クラブおよび放課後子ども教室の連携をさらに充実するなど、総合的な放課後児童対策の充実に努める

#### 参考指標と総合評価

指標項目	基準値	中間値	31年度目標値	総合評価
①放課後児童クラブ利用者数	1,270人	1,347人	1,750人	A
②放課後子ども教室数行事・活動内容への満足度	—	97.0%	100.0%	
③放課後子ども教室の施設・環境に対する満足度	—	74.9%	100.0%	

①基準値：平成25年度実績値

①中間値：平成28年度実績値

②中間値：平成28年度事業アンケート（児童館等利用者への満足度等アンケート）

③中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査（小学校児童の保護者）

#### 秋田市子ども・子育て会議委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	90%	10%	0%

##### 【委員からの主な意見(要約)】

- 概ね放課後の遊び、生活の場が確保されていると感じ、安心できるので今後もお願いする。
- 放課後児童健全育成事業について、保育園入所児童の親は小学校入学にあたり、学童保育が切実な問題となるため、数の不足がないよう充実に努めて欲しい。
- 児童厚生員等、関係者の質の向上を図るよう、研修を確実に実施して欲しい。
- 児童厚生員の数が足りておらず、「質」も満足できるレベルに達していない。
- 放課後児童健全育成事業について、その「質」について児童センターにおいても学童クラブにおいても不十分であるため、もっと「質」について指導すべきである。
- 今後も利用児童が増えるであろう放課後児童対策について、人材確保と居場所の確保の充実をお願いする。

#### 課題と今後の対応方針

放課後児童クラブについて、新制度施行に伴う児童一人あたりの面積要件変更により、定員数が減少するため、想定される待機児童発生への対応が必要であり、経過措置である平成31年度までに、創設・改築・改修を予定する放課後児童クラブを把握し整備を支援していく。また、放課後子ども教室は、利用児童が年々増加傾向であることから、対応する児童厚生員兼教育活動推進員の人材確保に努めていく。

更に、児童厚生員および放課後児童支援員の資質向上に係る研修会を実施するほか、県や秋田県児童館等連絡協議会等が実施する各種研修会への参加を促進していく。

#### 27～29年度の取組・事業

- 放課後児童健全育成事業（再掲）
- 放課後子ども教室推進事業
- 児童厚生施設整備事業